

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-323863

(43)Date of publication of application : 08.11.2002

(51)Int.Cl.

G09F 9/00
G09F 9/313
H04N 5/66

(21)Application number : 2001-126411

(71)Applicant : FUJITSU HITACHI PLASMA
DISPLAY LTD

(22)Date of filing : 24.04.2001

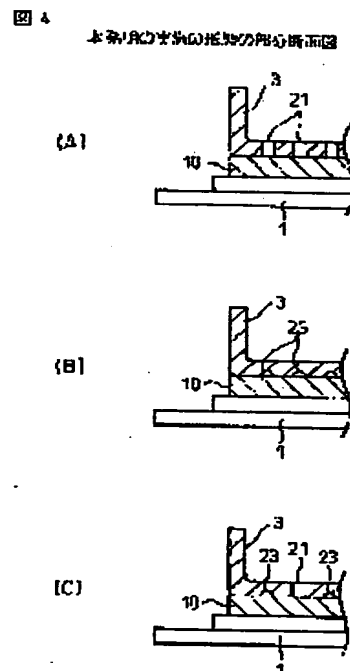
(72)Inventor : ISOHATA HIDEKI
ISHIDA KATSUHIRO
KIMURA HIDEO

(54) PLASMA DISPLAY DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To realize a plasma display device having a frame structure permitting to solve the problems such as thermal conductivity, heat radiation, and strength without inviting much increase in cost.

SOLUTION: The plasma display panel 1 is provided with a plasma display panel 1, circuits 5, 6, 7 having a driving circuit for driving the plasma display panel 1, a main frame 3 for mounting a circuit board, and an adhesive tape 10 for fixing the plasma display panel on the main frame 3, and the main frame 3 has a plurality of small holes arranged in the part where the adhesive tape is stuck.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-323863

(P2002-323863A)

(43) 公開日 平成14年11月8日 (2002.11.8)

(51) Int.Cl. ⁷		識別記号	F I		テームト [®] (参考)
G 0 9 F	9/00	3 5 0	G 0 9 F	9/00	3 5 0 Z 5 C 0 5 8
		3 0 4			3 0 4 B 5 C 0 9 4
	9/313			9/313	Z 5 G 4 3 5
H 0 4 N	5/66	1 0 1	H 0 4 N	5/66	1 0 1 A

審査請求 未請求 請求項の数11 OL (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2001-126411(P2001-126411)

(22) 出願日 平成13年4月24日 (2001.4.24)

(71) 出願人 599132708

富士通日立プラズマディスプレイ株式会社
神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号

(72) 発明者 五十畑 秀樹

神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号
富士通日立プラズマディスプレイ株式会
社内

(72) 発明者 石田 勝啓

神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号
富士通日立プラズマディスプレイ株式会
社内

(74) 代理人 100077517

弁理士 石田 敬 (外4名)

最終頁に続く

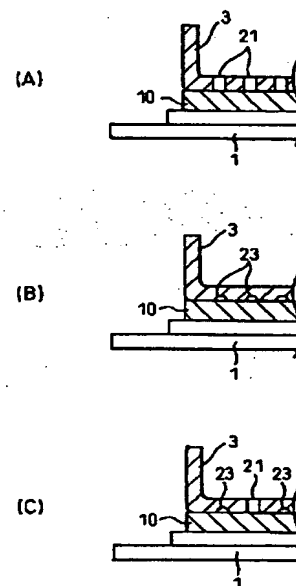
(54) 【発明の名称】 プラズマディスプレイ装置

(57) 【要約】

【課題】 コストの大きな増大を伴わずに、熱伝導性、放熱性、強度などの問題点を解決可能なフレーム構成を有するプラズマディスプレイ装置の実現。

【解決手段】 プラズマディスプレイパネル1と、このプラズマディスプレイパネル1を駆動するための駆動回路を有する回路5、6、7と、回路基板を搭載するためのメインフレーム3と、プラズマディスプレイパネル1をメインフレーム3に固定するための接着テープ10とを備えるプラズマディスプレイ装置であって、メインフレーム3は、接着テープ10が貼られる部分に設けられた複数の小孔を備える。

図 4
本発明の実施の形態の部分断面図



【特許請求の範囲】

【請求項1】 プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメインフレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる部分に設けられた複数の小孔を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【請求項2】 前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の、前記接着テープが貼られる部分に設けられた複数の小さな凹部を備える請求項1に記載のプラズマディスプレイ装置。

【請求項3】 前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凹部を備える請求項1又は2に記載のプラズマディスプレイ装置。

【請求項4】 前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凸部を備える請求項1又は2に記載のプラズマディスプレイ装置。

【請求項5】 前記接着テープは、複数の小孔を備える請求項1から4のいずれか1項に記載のプラズマディスプレイ装置。

【請求項6】 前記接着テープは、前記プラズマディスプレイパネルとの接触面に複数の小さな凹部を備える請求項1から4のいずれか1項に記載のプラズマディスプレイ装置。

【請求項7】 プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメインフレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の、前記接着テープが貼られる部分に設けられた複数の小さな凹部を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【請求項8】 前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凹部を備える請求項7に記載のプラズマディスプレイ装置。

【請求項9】 前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凸部を備える請求項7に記載のプラズマディスプレイ装置。

【請求項10】 プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメイン

フレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記接着テープは、複数の小孔を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【請求項11】 プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメインフレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記接着テープは、前記プラズマディスプレイパネルとの接触面及び前記メインフレームとの接触面の少なくとも一方に複数の小さな凹部を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、プラズマディスプレイパネル(Plasma Display Panel:PDP)を用いたプラズマディスプレイ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】プラズマディスプレイパネル（以降、PDPと称する。）は、壁掛けテレビなどの表示デバイスとして、近年大きく注目されてきている。PDPを用いたプラズマディスプレイ装置に関しては、例えば、特開平11-272182号公報などに開示されているので、ここでは詳しい説明は省略し、本発明に直接関係するプラズマディスプレイ装置の組み立て構造についてのみ簡単に説明する。

【0003】図1は、プラズマディスプレイ装置の組み立て構造を示す分解斜視図であり、図2は組み立てたプラズマディスプレイ装置を示す斜視図であり、図3は組み立てたプラズマディスプレイ装置の部分断面図である。図において、参照番号1はPDPであり、2はPDP内のガスを排気するために用いたチップ管であり、3はメインフレームであり、5、6及び7は駆動回路などを搭載した回路基板であり、4及び8はドライバである。

【0004】PDP1は、基本的に一对のガラス基板から構成されている。このため、PDP1に回路基板5、6及び7を搭載する場合、ネジなどで直接固定することは困難であり、回路基板5、6及び7を金属板などからなるメインフレーム3に固定し、このメインフレーム3を例えば両面テープなどの接着テープでPDP1に接着して固定する手法を採っている。

【0005】PDP1に貼り付けられるメインフレーム3は、PDP1が発生する熱を均一に分散させて放熱する役割が求められている。このため、メインフレーム3は熱伝導性の高い材質で構成すると共に、ヒートシンクとしての機能を高めるように表面積を増加させる工夫が

なされる。一方、接着テープ10は、メインフレーム3とPDP1の間にほぼ等間隔に短冊状に設けられる。具体的には、例えば、PDP1の表面に短冊状の接着テープを隣接して全面に貼り付けた後、メインフレーム3を貼り付けるが、メインフレーム3に接着テープ10を貼り付けた後、PDP1を貼り付けるようにしてもよい。接着テープ10は、熱伝導性の高い材料のものを使用し、PDP1で発生した熱をメインフレーム3に伝える機能を有している。

【0006】接着テープ10をPDP1又はメインフレーム3に貼り付ける時、又は貼り付けられた接着テープ10にPDP1又はメインフレーム3を貼り付ける時、それらの間に空気が閉じ込められ、気泡を生じやすいという問題がある。気泡は空気層であり、気泡があるとその部分の熱の伝達が悪くなるので、接着テープ10の熱伝導性を十分に活用するためには、貼り付けた状態で、接着テープ10とPDP1の間及び接着テープ10とメインフレーム3の間に気泡がないようにする必要がある。そのため、従来の組み立て工程では、気泡取りの作業が行われていた。しかし、気泡取りの作業は容易でなく、十分に気泡が除去できないだけでなく、製造コストを増加させるといった問題を生じていた。

【0007】このような問題を解決するため、特開平10-254372号公報は、PDPとフレームシャーシ(メインフレーム)の間に介在する熱伝導シートのPDPとの接触面に凹部と凸部を設ける構成を開示している。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】空気層は、熱伝導シートとPDPとの接触面だけでなく、熱伝導シートとメインフレームとの接触面にも残り、いずれの空気層もPDPの熱をメインフレームに伝導することに関しては同じように影響する。しかし、特開平10-254372号公報は、熱伝導シートのプラズマディスプレイパネルとの接触面に空気層を残さないことのみ言及するだけで、熱伝導シートのメインフレームとの接触面の空気層については言及していない。また、特開平10-254372号公報に開示された発明は、貼り付けの際に凹部と凸部の間の隙間を伝って空気を逃がすが、設けられる隙間は小さく、隙間を伝ってすべての空気を逃がすのは実際には難しい。

【0009】また、PDP1はガラス基板から構成されているため、大画面化するほど強度の確保が不可欠となる。しかしながら、メインフレーム3を複雑で高コストになる構成にすることは難しかったため、従来のメインフレーム3は金属の薄い一枚板から構成されていた。そのため、このメインフレーム3に回路基板4、5、6、7及び8などを搭載しただけでは、プラズマディスプレイ装置としての強度が不足してしまうという問題が生じる。このため、剛性不足を改善するためには、例えば、

メインフレーム3の厚みを厚くすることや補強部品の追加が考えられる。しかし、メインフレーム3の厚みを厚くする場合、メインフレーム3の平面度を高くしなければならず、コストが増加するという問題を生じる。すなわち、メインフレーム3が反っていた場合、メインフレーム3はPDP1に沿うが、メインフレーム3が薄い場合には、PDP1への負荷は小さく、大きな問題にはならない。しかしながら、メインフレーム3が厚くなると、反ったメインフレーム3に接着したPDP1には過大な負荷がかかることになり、パネル割れの原因となってしまう。

【0010】また、メインフレーム3は、放熱性を高めるために表面積が大きいことが望ましい。そこで、従来は補強部品を表面積の大きなヒートシンクなどにして放熱性を上げていたが、補強部品のコストが高くなるという問題があった。本発明は、上記問題点を解決するためのもので、コストの大きな増大を伴わずに、種々の問題を解決可能なフレーム構成を有するプラズマディスプレイ装置を提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明は、プラズマディスプレイパネルと、このプラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、この回路基板を搭載するためのメインフレームと、プラズマディスプレイパネルをメインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置に関する。そして、上記目的を実現するため、本発明の第1の態様は、メインフレームの接着テープが貼られる部分に、複数の小孔を設ける。なお、複数の小孔は、所定の間隔で規則性を持って配列されていることが望ましい。

【0012】本発明の第1の態様によれば、メインフレームの接着テープが貼られる部分には複数の小孔が設けられているので、接着テープとメインフレームとを貼り付ける時に、接着テープとメインフレームの間の空気はこれらの小孔から外部に逃げるので、接着テープとメインフレームの間に気泡を生じない。また、気泡を生じた時でも、小孔を利用して簡単に気泡を除くことができる。

【0013】もちろん、小孔の部分にはメインフレームの金属版は存在しないので、小孔を設けない部分では熱の伝導を生じない。従って、小孔を設けず且つ気泡もない場合に比べて熱伝導性は低くなるが、少なくとも部分的に気泡が存在する状態は容易に回避できる。従来の小孔を設けない場合には、広い範囲に渡って連続した大きな気泡が発生するといった状態が頻繁に発生した。発明者が調べたところでは、小さな気泡はほとんど問題を発生せず、実際に問題になるのは、広い範囲に渡って連続した大きな気泡が発生した場合であり、この大きな気泡が連続した広い範囲で熱伝導性を低下させると問題を生じることが分かった。従って、たとえ小孔の部分で熱伝

導が行われなくても、何ら問題を発生しない。特に、複数の小孔を所定の間隔で規則性を持って配列すれば、大きな気泡が発生することはない。

【0014】本発明の第2の態様は、メインフレームの接着テープが貼られる面に複数の小さな凹部を設ける。これらの複数の小さな凹部は、円形又は他の形状で凹加工を施すことにより形成され、所定の間隔で規則性を持って配列されていることが望ましい。本発明の第2の態様によれば、第1の態様と異なり、メインフレームと接着テープの間に発生する気泡を排除することはできないが、凹部以外の部分に気泡が発生するのを抑制することができる。従って、広い範囲に渡って連続した大きな気泡が発生するのを防止でき、上記のように、たとえ凹部で熱伝導が行われなくても、何ら問題を発生しない。

【0015】第2の態様を適用する場合、メインフレームに穴を開ける必要がないため、メインフレームの剛性を低下させることがなく、しかも凹部の加工は簡単なプレス加工で行えるので、メインフレームの板厚が大きくなっても簡単に実施できる。本発明の第3の態様は、第1の態様と第2の態様のいずれか又は両方を行い、更にメインフレームの接着テープが貼られる面の反対側（すなわち、回路基板が取り付けられる側）の面に、複数の小さな凹部又は凸部を設ける。複数の小さな凹部又は凸部は、所定の間隔で規則性を持って配列されていることが望ましい。

【0016】本発明の第3の態様によれば、放熱を行う側の面の表面積が増加するので、メインフレームの放熱性が向上する。また、両面に凹凸加工を施すことにより、メインフレームの剛性の向上も同時に果たせる。上記の第1の態様から第3の態様は、それぞれ又はすべて組み合わせることが可能である。これらを組み合わせることにより、気泡の空気を排出可能又は大きな気泡を生じないように積極的制御すると共に、板材の持つ剛性を高めることができる。しかも、これらを組み合わせても、プレス加工の工程を追加する必要はないので、安価に熱伝導性・放熱・剛性の向上が図れる。

【0017】なお、上記の第1の態様から第3の態様は、特開平10-254372号公報に開示された構成と組み合わせることが可能である。また、本発明の第4の態様は、接着テープに複数の小孔を設ける。複数の小孔は、所定の間隔で規則性を持って配列されていることが望ましい。本発明の第4の態様によれば、接着テープを最初にPDP又はメインフレームに貼り付ける場合に、空気は小孔から逃げるので、気泡を生じない。また、既にPDP又はメインフレームの一方に貼り付けた接着テープに、他方を貼り付ける場合には、接着テープの穴以外の部分に気泡が発生するのを防止できる。特に、第4の態様を第1の態様と組み合わせる場合には、接着テープの複数の小孔の位置とメインフレームの小孔の位置を一致させれば、貼り付ける時に空気を逃がすこ

とが可能である。

【0018】本発明の第5の態様は、接着テープのプラズマディスプレイパネルとの接触面及びメインフレームとの接触面の両方に複数の小さな凹部を設ける。これらの複数の小さな凹部は、所定の間隔で規則性を持って配列されていることが望ましい。第5の態様によれば、接着テープの両側に複数の小さな凹部が設けられているので、PDPとメインフレームの両方に接着テープを貼り付ける時に、接着テープの凹部以外の部分に気泡が発生するのを防止できる。

【0019】

【発明の実施の形態】以下、図4から図8を参照して、本発明の実施の形態を説明する。本発明が適用されるプラズマディスプレイ装置は、図1から図3に示したのと同様の構成を有し、メインフレーム3及び接着テープ10の部分のみが異なる。図4の(A)は、第1の実施形態を示す部分断面図である。図示のように、第1の実施形態では、メインフレーム3の接着テープ10が貼られる部分に、複数の小孔21を、所定の間隔で規則性を持って配列している。接着テープ10とメインフレーム3とを貼り付ける時に、接着テープ10とメインフレーム3の間の空気はこれらの小孔21から外部に逃げるので、接着テープ10とメインフレーム3の間に気泡を生じない。また、気泡を生じた時でも、小孔21を利用して簡単に気泡を除くことができる。

【0020】図4の(B)は、第2の実施形態を示す部分断面図である。図示のように、メインフレーム3の接着テープ10が貼られる面の、接着テープ10が貼られる部分に複数の小さな凹部23が、所定の間隔で規則性を持って設けられている。メインフレーム3と接着テープ10の間に発生する気泡を排除することはできないが、凹部23以外の部分に気泡が発生するのを抑制することができる。従って、広い範囲に渡って連続した大きな気泡が発生するのを防止できる。言い換えれば、第2の実施形態は、気泡を完全に排除するのではなく、凹部23に対応した小さな気泡を規則的に発生させて、広い範囲に渡って連続した大きな気泡が発生しないように、積極的に制御するものである。第2の実施形態では、メインフレームに穴を開ける必要がないため、メインフレームの剛性を低下させることがなく、しかも凹部の加工は簡単なプレス加工で行えるので、メインフレームの板厚が大きくなっても簡単に実施できる。

【0021】図4の(C)は、第1と第2の実施形態を合せて行った場合の部分断面図である。図示のように、メインフレーム3の接着テープ10が貼られる部分に、複数の小孔21と複数の小さな凹部23が、所定の間隔で規則性を持って配列されている。従って、この実施形態では、板材の持つ剛性を保ちつつも、気泡の空気を積極的に排出することができ、剛性と熱伝導性の両方を良好にできる。

【0022】図5の(A)は、第3の実施形態を示す部分断面図である。図示のように、第3の実施形態では、メインフレーム3の接着テープ10と接触する側に凹加工を施し、回路基板が取り付けられる側にも凹加工を施している。回路基板が取り付けられる側にも凹加工を施すことにより、放熱を行う面の表面積が増加し、メインフレーム3の放熱性が向上する。また、両面に凹加工が施されるので、メインフレーム3の剛性が向上する。

【0023】図5の(B)は、第4の実施形態を示す部分断面図である。図示のように、第4の実施形態では、第3の実施形態で、回路基板が取り付けられる側の凹加工を凸加工にしたもので、第3の実施形態と同じ効果が得られる。図5の(C)は、第4の実施形態で、メインフレーム3の両側の凹加工と凸加工を同じ位置に施すようにしたもので、凹加工と凸加工が同時にプレス加工で行える。

【0024】図6の(A)は、第1と第3の実施形態を合せて行った場合の部分断面図であり、図6の(B)は、第1と第4の実施形態を合せて行った場合の部分断面図である。図6の(A)と(B)の実施形態では、上記の効果を合せた効果が得られると共に、実施形態を組み合わせても、プレス加工の工程を追加する必要はないので、安価に熱伝導性・放熱・剛性の向上が図れる。

【0025】図7の(A)は、第5の実施形態を示す部分断面図である。図示のように、第5の実施形態では、接着テープ10に複数の小孔31を、所定の間隔で規則性を持って配列している。接着テープ10を先にPDP1に貼り付ける時には、接着テープ10とPDP1の間の空気はこれらの小孔31から外部に逃げるので、接着テープ10とPDP1の間に気泡を生じない。また、気泡を生じた時でも、小孔31を利用して簡単に気泡を除くことができる。次に、PDP1に貼り付けられた接着テープ10をメインフレーム3に貼り付ける時には、小孔31があるので、接着テープ10とメインフレーム3の間の小孔31以外の部分に気泡が生じることはない。

【0026】逆に、接着テープ10を先にメインフレーム3に貼り付ける時には、接着テープ10とメインフレーム3の間の空気はこれらの小孔31から外部に逃げるので、接着テープ10とメインフレーム3の間に気泡を生じない。また、気泡を生じた時でも、小孔31を利用して簡単に気泡を除くことができる。次に、メインフレーム3に貼り付けられた接着テープ10をPDP1に貼り付ける時には、小孔31があるので、接着テープ10とPDP1の間の小孔31以外の部分に気泡が生じることはない。

【0027】図7の(B)は、第1と第5の実施形態を合せて行った場合の部分断面図である。図示のように、メインフレーム3に設けられた小孔21と、PDP1に設けられた小孔31は、位置が一致するように、所定の間隔で規則性を持って配列されている。従って、PDP

1又はメインフレーム3に貼り付けられた接着テープ10を、メインフレーム3又はPDP1に貼り付ける時にも、それらの間の空気は小孔21と31から外部に逃げるので、気泡が生じることはない。

【0028】図8の(A)は、第6の実施形態を示す部分断面図である。図示のように、第6の実施形態では、接着テープ10の両面に複数の小さな凹部32と33を、所定の間隔で規則性を持って配列している。接着テープ10をPDP1又はメインフレーム3に貼り付ける時には、小さな凹部32と33があるので、接着テープ10とPDP1又はメインフレーム3の間の小さな凹部32と33以外の部分に気泡が生じることはない。

【0029】図8の(B)は、第7の実施形態を示す部分断面図である。図示のように、第7の実施形態では、接着テープ10のPDP1との接触面に複数の小さな凹部32を、所定の間隔で規則性を持って配列すると共に、メインフレーム3に複数の小孔21を所定の間隔で規則性を持って配列している。接着テープ10をメインフレーム3に貼り付ける時には、接着テープ10とメインフレーム3の間の空気はこれらの小孔21から外部に逃げるので、接着テープ10とメインフレーム3の間に気泡を生じない。また、接着テープ10をPDP1に貼り付ける時には、小さな凹部32があるので、接着テープ10とPDP1の間の小さな凹部32以外の部分に気泡が生じることはない。

【0030】以上、本発明の実施の形態を説明したが、各実施の形態を組み合わせて実施することが可能であると共に、いろいろな変形例が可能である。例えば、第3の実施の形態と第6の実施の形態を組み合わせて、接着テープ10の両面に複数の小さな凹部を所定の間隔で規則性を持って配列すると共に、メインフレーム3に複数の小孔を所定の間隔で規則性を持って配列することも可能である。

【0031】(付記1) プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメインフレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる部分に設けられた複数の小孔を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【0032】(付記2) 前記複数の小孔は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記1に記載のプラズマディスプレイ装置。

(付記3) 前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の、前記接着テープが貼られる部分に設けられた複数の小さな凹部を備える付記1に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0033】(付記4) 前記複数の小さな凹部は、所定

の間隔で規則性を持って配列されている付記3に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記5〕前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凹部を備える付記1又は3に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0034】〔付記6〕前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた前記複数の小さな凹部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記5に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記7〕前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凸部を備える付記1又は3に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0035】〔付記8〕前記複数の小さな凸部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記7に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記9〕前記接着テープは、複数の小孔を備える付記1から8のいずれか1項に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記10〕前記複数の小孔は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記9に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0036】〔付記11〕前記接着テープは、前記プラズマディスプレイパネルとの接触面に複数の小さな凹部を備える付記1から8のいずれか1項に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記12〕前記接着テープの前記複数の小さな凹部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記11に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0037】〔付記13〕プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメインフレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の、前記接着テープが貼られる部分に設けられた複数の小さな凹部を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【0038】〔付記14〕前記複数の小さな凹部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記13に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記15〕前記メインフレームは、前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凹部を備える付記13に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0039】〔付記16〕前記接着テープが貼られる面の反対側の面に設けられた前記複数の小さな凹部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記15に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記17〕前記メインフレームは、前記接着テープが

貼られる面の反対側の面に設けられた複数の小さな凸部を備える付記13に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0040】〔付記18〕前記複数の小さな凸部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記17に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記19〕前記接着テープは、複数の小孔を備える付記13から18のいずれか1項に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記20〕前記複数の小孔は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記19に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0041】〔付記21〕前記接着テープは、前記プラズマディスプレイパネルとの接触面に複数の小さな凹部を備える付記13から18のいずれか1項に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記22〕前記接着テープの前記複数の小さな凹部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記21に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0042】〔付記23〕プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメインフレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記接着テープは、複数の小孔を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【0043】〔付記24〕前記複数の小孔は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記23に記載のプラズマディスプレイ装置。

〔付記25〕プラズマディスプレイパネルと、該プラズマディスプレイパネルを駆動するための駆動回路を有する回路基板と、該回路基板を搭載するためのメインフレームと、前記プラズマディスプレイパネルを前記メインフレームに固定するための接着テープとを備えるプラズマディスプレイ装置であって、前記接着テープは、前記プラズマディスプレイパネルとの接触面及び前記メインフレームとの接触面の少なくとも一方に複数の小さな凹部を備えることを特徴とするプラズマディスプレイ装置。

【0044】〔付記26〕前記複数の小さな凹部は、所定の間隔で規則性を持って配列されている付記25に記載のプラズマディスプレイ装置。

【0045】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のプラズマディスプレイ装置では、プラズマディスプレイパネルに固定されるメインフレームと接着テープとの間に接着時に生じる気泡を排除する複数の小孔又は小さな凹部を設けているため、コストの大きな増大を伴うことなく、熱伝導性、放熱性、強度などの問題点を改善することが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、プラズマディスプレイ装置の組み立て構造を示す図である。

【図2】図2は、プラズマディスプレイ装置を示す斜視図である。

【図3】図3は、従来例の部分断面図である。

【図4】図4は、本発明の実施の形態の部分断面図である。

【図5】図5は、本発明の実施の形態の部分断面図である。

【図6】図6は、本発明の実施の形態の部分断面図である。

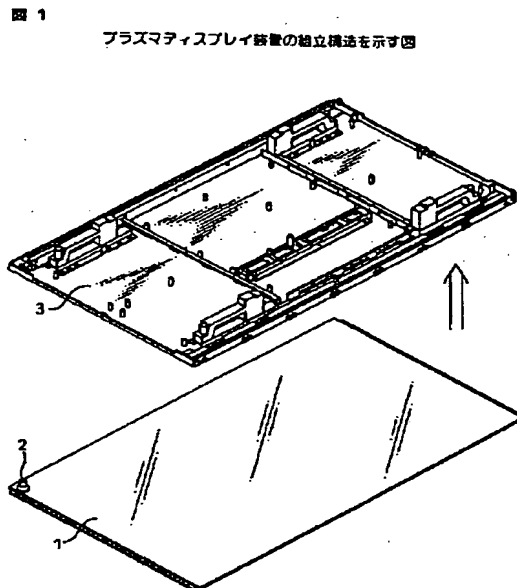
【図7】図7は、本発明の実施の形態の部分断面図である。

【図8】図8は、本発明の実施の形態の部分断面図である。

【符号の説明】

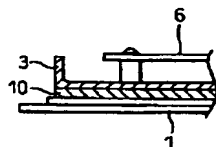
- 1…プラズマディスプレイパネル（PDP）
- 2…チップ管
- 3…メインフレーム
- 4, 8…ドライバ
- 5, 6, 7…回路基板
- 10…接着テープ
- 21…小孔
- 23, 25…凹部
- 27, 29…凸部
- 31…小孔
- 32, 33…凹部

【図1】

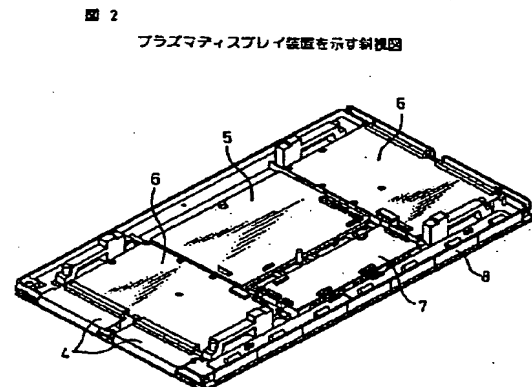


【図3】

図3 従来例の部分断面図

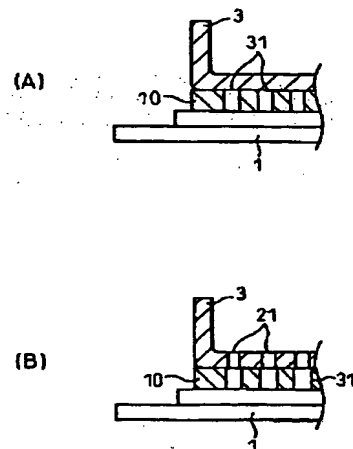


【図2】



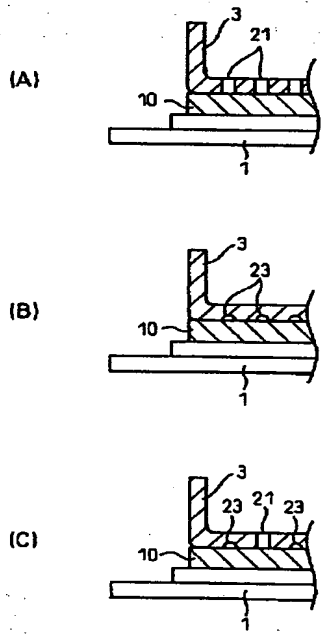
【図7】

図7 本発明の実施の形態の部分断面図



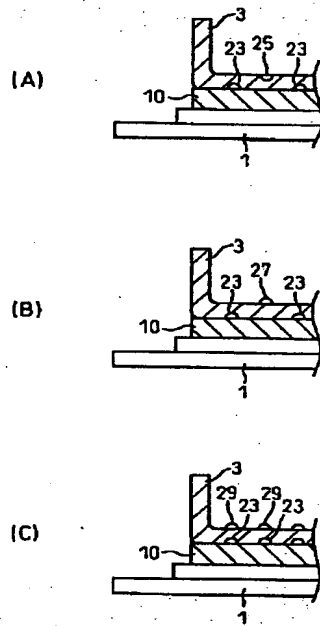
【図 4】

図 4
本発明の実施の形態の部分断面図



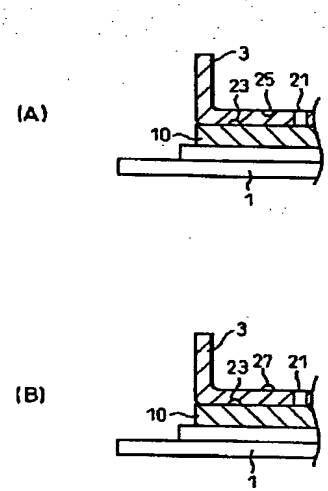
【図 5】

図 5
本発明の実施の形態の部分断面図



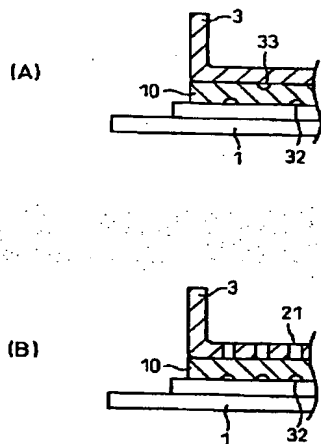
【図 6】

図 6
本発明の実施の形態の部分断面図



【図 8】

図 8
本発明の実施の形態の部分断面図



フロントページの続き

(72)発明者 木村 英夫

神奈川県川崎市高津区坂戸3丁目2番1号

富士通日立プラズマディスプレイ株式会
社内

Fターム(参考) 5C058 AA11 AB06 BA35

5C094 AA34 BA31 GB01

5G435 AA06 AA12 BB06 EE04 EE13

EE34 FF00 KK02